

慈明院寺報七月号

お施餓鬼法会



お施餓鬼とは、餓鬼道なる苦しみの世界に落ちた存在を、布施の修行として食物や読経を捧げて供養する僧侶の修行である。お施餓鬼の修行は今でも高野山では毎日行われている。供養しているのは、高野山でお坊さんの修行をしている修行僧たちである。高野山の施餓鬼には三つの約束事がある。

一つ、施餓鬼は夜の就寝前に行く。これは餓鬼という存在は、とても弱いモノで日の光を浴びる事ができないそう。餓鬼がお供えした食物にありつけるように、日が落ちてから供養を行うのである。

二つ、数珠を使って拝まない。これも餓鬼が数珠を摺る音にビククリして逃げていけないように配慮しての事だそう。だから私語も厳禁である。

三つ、本堂の仏様がられる内陣で拝まない。これも本尊様をはじめとする仏様がられる本堂は聖域である。仏様の力が強く、餓鬼は本堂の中に入る事ができないのである。だから高野山では施餓鬼を廊下や縁側で行う。どこまでも施す側が施される側の気持ちになって修行させて頂くのである。

今年も来る七月二十七日、当院でも僧侶の方々に

お集まり頂き、施餓鬼供養を勤める。本堂の窓から外に向かって施餓鬼檀という祭壇を組み供養を行う。餓鬼とは飢えているから餓鬼なのではない、貪るから餓鬼なのでもない。「自分が持っているもので満足できない存在」が餓鬼なのである。施し（布施）の修行を通して足る事を知り、自分の心と向き合う。足るを知る心があれば、ダイエットもはかどるかしら・・・。

住職 合掌



お施餓鬼 灯籠供養法会のご案内（別紙参照）

来る令和六年 七月二十七日（土曜日）夕方七時より

*紙灯籠に亡くなった仏様の戒名や、先祖供養を謹書して灯籠に火を点し夕闇の中、数人の僧侶で読経してご供養を勤めます。どなたでもご参拝頂けます。

*ご供養をお申し込み頂いた紙灯籠は、お盆（八月十五日）まで本堂に安置してご供養致します。またお盆の灯りとしてお持ち帰り頂いても構いません。法会終了後、希望される方は灯籠をお渡しします。

お盆のおまいりについて

各檀家様には、七月中旬に「お盆まいりのお知らせ」をお送りさせて頂きます。お忙しい時期とは存じますが、宜しくお願い申し上げます。随時、お参りについてのお問い合わせ、変更等承ります。

住職のひとりごと

今年も初盆のお宅の予定など伺いながら、お盆まいりの予定を立てております。お盆休みにお騒がせ致しますが、どうぞ宜しくお願いします。お帰りにられます仏様にも、どうか宜しくお伝え下さい。 住職 合掌



慈明院

〒八一一一三 福岡市早良区大字西二三四一（二〇）

TEL (〇九二) 八〇四四五七〇 FAX (〇九二) 八〇四四六〇五

住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇-（五二八一）-七四九四